

## 2021年夏の学習

茗溪塾塾長 長谷 誠基

東京オリンピックが始まり、毎日すばらしい競技が行われています。無観客になり開催自体も賛否両論ありながらの前代未聞のオリンピックとなっていますが、選手たちの戦いを見ていると、やはり長い期間人生をかけて準備してきたものが発揮できる機会を得られたのは良かったのではないかと思います。選手のインタビューを聞いていてもコロナ禍でただでさえ苦しい練習が別な試練も加わり、本当に苦しい練習の道のりとなったことがうかがえます。だからこそ、開催されたことや準備に携わってくれた周りの人への感謝の言葉が口をついて出るのだと思いますし、破った相手へのリスペクトも自然と内から湧き出てくるのでしょう。

塾では夏期講習の真っ最中で、受験生は正に苦しい準備期間になっていると思います。毎日の長い時間の学習。夏期講習前にはこんなに長い時間できるのか？とご心配されていた方もいらっしゃると思いますが、生徒達は初日から平気でした。塾の授業というと、ずっと先生の講義を聞いているというイメージがあるかもしれませんが、茗溪塾では短時間の授業の後必ず演習時間があり、自分で問題に取り組む時間が確保されています。そして説明も生徒とのやりとりをしながら進んでいきます。ですからじっと授業を聞いているわけではないので、長い時間でもやれるのです。そして実はこの長時間学習に慣れることが今後の受験勉強にとって大きな糧になります。9月以降は日曜日等に1日中勉強していても全然平気になりますし、少くも課題を出してもこなせるようになってきます。この夏を利用して子ども達は勉強体力をつけることになります。やはりこの準備期間は非常に重要だということです。まだ夏期講習の後半もありますし、お盆特訓もあります。これを通じて身につけていきましょう。

しかし、気をつけなければいけないのは勉強が空回りになっていないか？ということです。特に作業勉強に時間をかけるのは何の効果もありません。時間が取れる夏こそ一問一問、時間をかけて考えて思考力をつけてほしいと思いますし、基礎事項の定着も必要です。2学期以降に成績が飛躍するためにはこの2つがバランスよく勉強に組み込まれていることが重要です。授業で少し難しいものにあたっているなら、学習指導ルームや TC ルーム、家庭学習などで基礎的な学習をするなどしていくのが良いと思います。どんな競技でも基礎がしっかりしていないと、大技も修得できません。あせらずまずは基礎を固め、少しずつ応用的な問題を練習していきましょう。これをやることで2学期以降に過去問に取り組める力がついていきます。残りの夏休みの期間、このことを意識させられるように指導していきます。